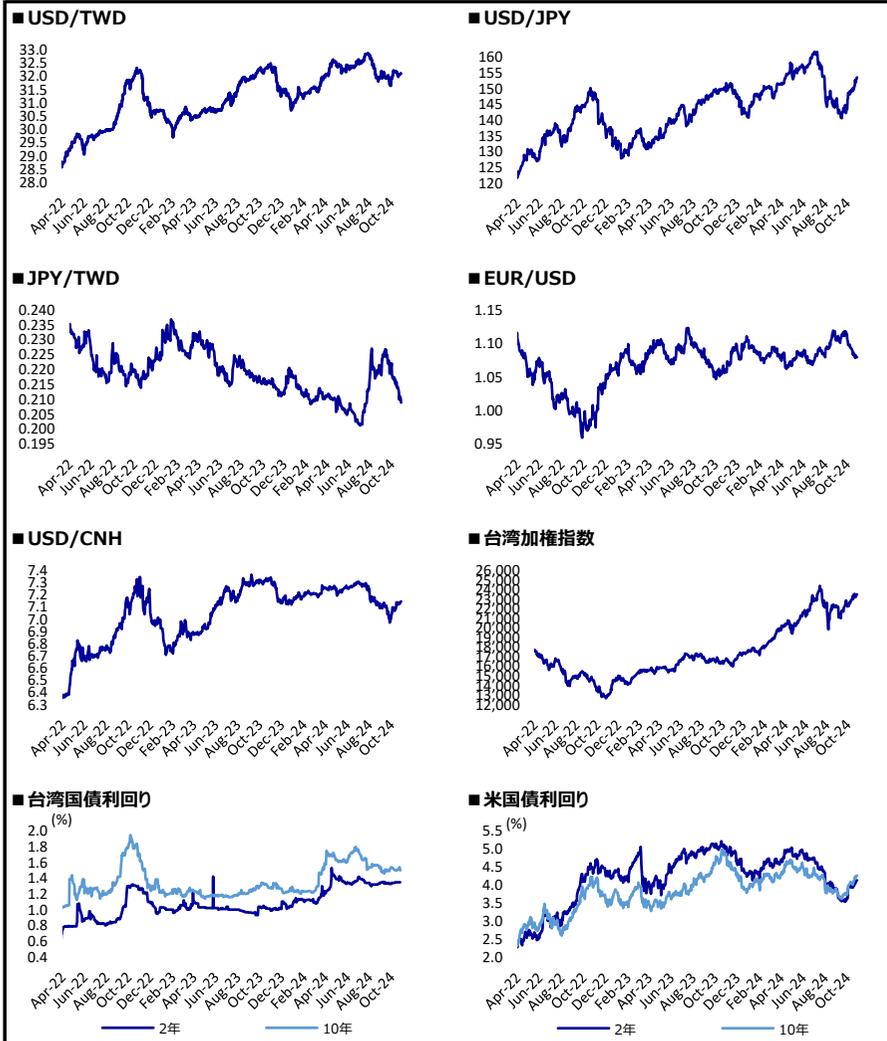


市場動向



先週の市場動向

**■USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは変わらず。週初10/21は32.050でオープン後、台湾半導体大手より予想を上回る強気な業績見通しが示されたことを受けて台湾株が上昇する中、外国人投資家による台湾株買いが見られ、一時31.937まで下落。10/22は、前日海外時間に米金利が急騰していたことや、海外投資資金送金が見られていたことを受けてドル買いが優勢な展開となり32.00台後半まで上昇。10/23は、米大統領選におけるトランプ氏勝利への期待感が高まる中、米金利の上昇が加速していたことを受けてドル買いが進み一時32.135まで上昇。10/24は、月末に向けて輸出業者による外貨売りが見られ始める中、ドルが売り戻され32.00台後半で上値重く推移。10/25は、外国人投資家による台湾株買いが見られた一方で、海外時間に米重要指標の発表を控える中、米経済楽観論が広がることへの警戒感が高まりを見せたことで売り買い交錯となり32.00台後半で揉み合いの推移となった。最終的には前週比概ね変わらずの32.071で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は323.1億台湾ドル。

**■USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇。週初10/21は149.54でオープン後、海外時間に入ると特段材料もない中、米金利が急騰しドル買いの圧力が高まり、150円台後半まで上昇。10/22は、目立った材料に欠ける中、米景気の底堅さや米大統領選におけるトランプ氏勝利への期待感の高まりから、ドル買いが進み151円台前半まで上昇。10/23は、米景気の底堅さを背景に米利下げ観測が後退し、年内の米利下げ織り込みは約1.5回程度まで剥落する展開に。ドル買いが進み一時153.19まで上昇した。10/24は、加藤財務相より為替相場について「緊張感をさらに高めて注視」との見解が示されたことで為替介入への警戒感が高まる中、円が買い戻され151円台後半まで下落。10/25は、発表された日10月CPIが市場予想を上回る結果となり一時円買いの圧力が高まる展開に。しかし、海外時間に発表された米9月耐久財受注、並びに米10月ミシガン消費者信頼感指数が市場予想を上回る結果となったことを受けて米経済楽観論が広がり、ドル買いが進み152円台前半まで上昇した。最終的には前週比1.9%ドル高円安の152.33で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■USD/TWD** 予想レンジ：31.900-32.200  
今週は揉み合いの推移を見込む。米金利には上昇圧力が見られるものの、月末にかけて輸出業者による外貨売りが見られる場合、ドル/台湾ドルは売り買い交錯となるであろう。

**■USD/JPY** 予想レンジ：152.50-155.50  
今週のドル/円は底堅い展開を予想する。衆院選における自公過半数割れを受けて日本における政策運営懸念が高まる場合、円が売られやすいであろう。

今週の予定

10/28 (MON)	
10/29 (TUE)	日9月失業率、米10月カンファレンスボード消費者信頼感指数、米9月JOLTS求人数
10/30 (WED)	米10月ADP雇用統計、米第3四半期GDP、米第3四半期PCE
10/31 (THU)	日銀金融政策決定会合、台湾第3四半期GDP、米9月個人消費支出、米9月PCE
11/1 (FRI)	台湾10月製造業PMI、米10月雇用統計、米10月ISM製造業景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。